

平成 26 年度 広瀬図書館利用者懇談会 実施報告

- 1 日時 平成 27 年 3 月 8 日（日） 13 時 30 分～15 時
- 2 会場 広瀬市民センター 2 階会議室
- 3 出席者 ご利用者 : 4 名
ボランティア団体 : 2 名（内訳 : 読み聞かせボランティア 2 団体 各 1 名）
広瀬図書館 : 広瀬図書館長 他 6 名
- 4 内容
 1. 開会
 2. 挨拶 広瀬図書館長
 3. 自己紹介
 4. 平成 26 年度の取組み（配布資料あり）
 5. 図書館アンケートについて（配布資料あり）
 6. 広瀬図書館へのご意見・ご要望等
 7. 閉会

5 広瀬図書館へのご意見・ご要望等

ご出席者の運営評価、皆様から頂戴しましたご意見・ご要望は以下の通りです。

（1）広瀬図書館の事業全般

○宮城地区まつり参加「おはなしのへや」について

- ・「おはなしのへや」は午前中の方が参加者を集めやすい。午後は参加者が少なく、せっかく選んだ本でもあり、たくさんの方に聞いてもらいたい。13 時くらいまでが勝負だと思うので、ここに集中して実施したい。
- ・会場に夏休み読書スタンプラリーの時のおすすめ本の展示を貼り出せば、ゆっくり見てもらえてよいのではないかな。

○「広瀬図書館まつり」における協働事業の準備について

- ・ボランティア団体と図書館の連携で実施している「宮城地区まつり」への参加と「図書館まつり」は、実施時期がかなり近い。図書館まつりの取り組みは去年とも内容が変わり、図書館の方も準備が大変だったと思うが、年末年始のお休みを挟むこともあって打ち合わせの時間も取りにくい。
- ・解決策として、「宮城地区まつり」の準備段階から平行して「図書館まつり」の打ち合わせを進めることもできるのではないかな。

○本の福袋について

- ・「本の福袋」はとても良かった。子供たちが初めて読むような本と出会うきっかけになった。こうした取り組みが通年であるととてもありがたい。

（2）図書館サービス全般

○図書館主催事業の認知度と広報・PRについて

- ・図書館アンケートで 44 % の人がイベントの実施を知らないという結果が出ている。おはなし会の実施を担当していると同じ人しか来ていないことが分かる。図書館でも PR・広報にもっと力を入れて欲しい。
- ・毎週のように図書館を利用させてもらっているが、図書館がこんなにたくさんのイベントを実施していることを知って驚いた。

※図書館主催事業等の低い認知度に対するご意見を受け、図書館側からは以下のような問いかけを行った。

「来館される多くの方は本の貸出を受けることのみを目的として来館される場合が多く、事業等のPRについては多くの図書館が課題として抱えている。こうしたPRが行き届かないことにどのような理由があるか、具体的なPRについてもお考えをお聞かせいただきたい。」

- ・展示されたポスターなどは元から興味がないとなかなか見ない。カウンターでの一声があって初めて気付く。
- ・貸出カウンターなどにチラシは置いてあるが、図書館に来ない人に対するPRが問題になるのだと思う。市政だよりを見る機会は多くないので、幼稚園や小中学校を通じて広報を行ってみるのもよいのではないか。
- ・「おはなし会」などのイベントをチラシなどの字面で見るとはあっても、どのようなイベントなのかをイメージしにくい部分がある。イベントの様子を見かける機会があれば、興味が湧いて参加することもあるかもしれない。
- ・建物のロビーなどで図書館の主催したイベントを紹介するような展示を行えば、それを見て「次回行ってみよう」と思うかもしれない。
- ・チラシを町内会の回覧板に入れてはどうか。市民センターや小中学校のものは入っていることがあるので、聞いてみるのもよいのではないか。
- ・小学校などの図書スペースを活用するのもよいのではないか。
- ・子供は3歳から幼稚園に入ることになるので、2歳以下を対象とするイベントには人も集まりやすいのではないか。

※ご出席者お一人（大学生の方）に対して、若年層のイベント参加志向についてお尋ねした。

「大学生の目線でこれなら参加してみたいと思うようなイベントはあるか。」

- ・さっきの事業紹介の中にあった「ひろせワクワクシアター」などは、映画が入り口になって参加しやすいと思う。

○定員のある行事への参加申込みについて

- ・図書館で配布しているチラシに定員の記載があり、もう空きは無いだろうと思って諦めたことが何度かある。
- ・残りの参加可能人数を表示してくれると応募しやすいと思う。

【広瀬図書館からの回答】

定員に達した行事のチラシは配布を止めてしまう。カウンターなどにチラシを設置している行事は、すべて参加者の募集を行っている。

○紙芝居の配架方法について

- ・なかなか難しいことだとは思いますが、紙芝居もひな壇のような形で並べてもらえないか。新刊絵本のコーナーのような形になるとタイトルが見やすくてよいと思う。

○各年代向け資料の配架方法について

- ・高齢者向け施設で読み聞かせをさせていただくと、お聞きになった方はとても喜ばれる。高齢者を対象とする読み聞かせに向く本が分けて置いてあったら嬉しい。
- ・図書館に来た時は子供自身に好きな本を選ばせているが、読む本はどうしても偏ってしまう。年代別や学年別に本を集めた棚が通年で設置されていると良いと思う。書店では普通のことだが、仙台市の他の図書館でもそうした本の並べ方はしていなかった。

○図書館内における資料展示について

- ・図書館に来るのは自分の世界を広げたいという思いから。展示されているおすすめ本に選んだ人の名前が表示されていると親しみやすいのではないかな。

○若年層（１０代～２０代）の図書館利用について

- ・アンケートでも１０代，２０代の利用が少ないという結果が出ているが，図書館の事業にも，特に１０代，中高生向けのものが少ない。
- ・選書アドバイザー会議が中高生を対象としているとのことだったが，参加者はごく一部に限られてしまっている。もっと本を読む機会の少ない人たちにもアピールできる点があると良い。
- ・以前に図書館で本を借りた際，同じ著者の本を紹介してもらってとても嬉しかった。こういったことがあると，また来てみようと思える。

※ご出席者お一人（大学生の方）に対して，若年層の読書志向についてお尋ねした。

「最近の中高生・大学生世代がどのような分野の本に興味を持っているかをお聞かせいただきたい。」

- ・自分自身は小説など普通に読むのが好き。
- ・他の人の興味については答えにくいですが，私が本を読んでいると，周りからは「偉いね」と声をかけられる。そんな状況が中高生・大学生世代にはある。

※ご出席者お一人（大学生の方）に対して，公共図書館への来館理由について以下のようにお尋ねした。

「大学生が図書館を使うとなると，まず大学図書館に行くことが多いのではないかなと思うが，あえて公共図書館に来られる理由にはどのようなものがあるかな。」

- ・大学のレポートを作成するために広瀬図書館を使う。大学図書館の図書は専門書が中心。歴史学科に在籍しており，地域のことについて調べられる資料となると，広瀬図書館の方が充実している。

○レファレンスサービスについて／レファレンスという用語について

※図書館で使われている表現やサイン等の表示に関する理解度やサービスに対する認知度に関するお尋ねとして，特にレファレンスサービスについて以下のような問いかけを行った。

「図書館で使われている表現やサインなどの表示に分かりにくい部分はないか。例えば，レファレンスという言葉に対する理解やサービスに対する認知度はどうか。」

- ・「レファレンス」という言葉はあまりピンと来ない。

【広瀬図書館からの回答】

レファレンスサービスとはご利用の方々のご相談に応じて調べ物をお手伝いするサービス。図書館によっては，「調べ物相談」等の名称を採用して周知を図っているところもある。

- ・子供が以前からずっと探している本があり，図書館の職員の方に聞いてみたいとは思っているが，手がかりとなりそうな情報がとても少なく躊躇している。職員の方も貸出などでとても忙しそうで，時間のかかりそうな調べ物をお願いしていいものか迷ってしまう。

【広瀬図書館からの回答】

図書館の職員には利用者の方が読みたいと思っている本を何とかして提供したいという気持ちがある。気兼ねなくお声がけいただきたい。

- ・以前に沖縄の方言について調べてもらったことがあり，その際には根拠となる本を見つけていただいた。こうした調べ物と「レファレンス」という言葉は今まで結びついていなかった。
- ・「レファレンス」という言葉は知らなかったが，今までも自然に本を探してもらうなどのお願いをしてきた。内容を聞いて「あれがレファレンスだったのか。」と腑に落ちた。ただ，これは何度も図書館に来ているからこそできることで，周囲には司書を遠い存在と感じている人もいる。

- ・図書館では会話も慎むべきで、司書の方と本についてお話をするですら、周囲の目を気にしなければならぬと感じている。こうした状況を解決するために大事なのは、やはり利用する側と図書館職員との距離感だと思う。

(3) その他のご意見・ご要望

○広瀬図書館の雰囲気について

- ・広瀬図書館に来るととても懐かしい感じがする。子供の頃の図書館の雰囲気でホッとする。
- ・知り合いにも同じようなことを言う人間がいて、その人は名取から通っている。

○市民の参加する図書館活動について

※図書館活動への市民参画という視点で、図書館側から以下のような問いかけを行った。

「図書館の仕事の中に特に関わってみたいと思われるものはあるか。」

- ・同世代ならではの視点で本を選ぶこと。共感できる本は紹介したい。
- ・読み聞かせの活動について言えば、中学校や高校の放送部はそうした活動に積極的なので、声をかけてみると良いと思う。
- ・市政だよりも載っているのをよく見るので「読み聞かせ」は気になった。実際に見たことはないが、やってみようという気持ちはある。実際に「読み聞かせ」を見る機会を作ってもらえれば、試してみたいと思う人もいないのではないと思う。色々な人が順番に読み聞かせを行えるようにするのも面白いかもしれない。

【読み聞かせボランティア団体からの発言】

- ・読み聞かせをする時、男の人の声は良い。子供たちもとても落ち着いて聞く。
- ・おはなし会などの機会を捉えて、読み聞かせの様子をぜひ見てもらいたい。

※ご出席のボランティア団体に対して、図書館から以下のような問いかけを行った。

「地域に伝わる昔話に関わる取り組みは実施しているか。」

- ・地域に伝わる昔話については、地域の方が手作りされた紙芝居がある。これらを活用して、小学校に対しては実施している。